

V 心意気あふれる多彩な民間建築：船場周辺

大阪府中央区に位置し、北は中之島の土佐堀川、南は長堀通り、東・西は高速道路に囲まれる約 230 ヘクタールの区域が船場である。

船場は慶長 3 年（1598 年）に豊臣秀吉による大阪城三の丸建設に伴って建設された新たな市街地で、大阪夏の陣で焼け野原となり、江戸時代には、松平忠明により周辺の堀川整備などとともに復興され、幕府の上方支配の拠点化政策、全国諸藩の蔵屋敷の立地などにより、天下の台所として発展を遂げた。

その後、明治維新により、大阪の金融界は大打撃をうけ、経済は停滞を余儀なくされるが、早くからの工業化や築港整備による貿易拠点づくり、郊外鉄道など交通の近代化や都市計画の導入などにより、大大阪時代と言われる繁栄期を迎え、この時代には我が国を代表する近代建築も数多く造られた。

40 間四方の格子状の街区構造の東西方向に太閤下水が貫通する構成をもっているが、戦災復興の際に再開発エリアから除外されたこともあり、基本構造はいまなお近世のままの構造を残し、使い続けられている。これほどまでに古く、かつ経済活動としても未だ現役で活躍する市街地は世界の中でも珍しい。

長きに渡り現役市街地として活躍しつづける町衆のまち船場は様々な時代を象徴する建築物が数多く残されている。経済の中心地・証券のまち北浜の街角の象徴でありつづける[大阪証券取引所ビル](#)（1935 年：長谷部竹腰建築設計事務所）や、時計店として建設され、時計台がポイントとなっている[生駒ビルヂング](#)（1930 年：宗建築事務所）などは船場のランドマークとして今も愛されている。

船場の街区構成やまちの生業をいまに伝える建築物も数多い。薬のまち道修町を象徴する[武田道修町ビル](#)（1928 年：片岡建築設計事務所）、間口が狭く奥行きが深い街区を生かした[船場ビルディング](#)（1925 年：村上徹一）、典型的な近世船場の街割りに存在感あるファサードを生み出している[原田産業株式会社大阪本社ビル](#)（1928 年：小笠原祥光）、近代建築が建ち並ぶ堺筋界隈の[新井ビル](#)（1922 年：河合浩蔵）、[青山ビル](#)（1921 年：大林組）、[伏見ビル](#)（1923 年：長田岩次郎）、[堺筋倶楽部](#)（1931 年：川崎貯蓄銀行建築課）、格子状の船場街区の隅切を大胆に建物意匠のアクセントに取り込んだ[本町ビルディング](#)（1961 年：日建設計）、シンプルなシルエットに窓枠のシェイプが印象的な[輸出繊維会館](#)（1960 年：村野藤吾）など個性あふれる建築が船場というまちの多様性を実感させてくれる。

さらに昔の船場を思い起こすことのできる建築物も残っている。町家建築の小西家住宅（1903年：設計不詳）、[北野家住宅](#)（1928年：不詳）、[清水猛商店](#)（1924年：住友工作部）、当時は、船場のこいさん、いとはんが通う花嫁学校として利用された[芝川ビル](#)（1927年：澁谷五郎、本間乙彦）などは、生業と居住が一体化していた船場を思い起こさせてくれる。

船場に隣接する四ツ橋筋界限では、[長瀬産業株式会社大阪本社ビル](#)（1928年：設楽貞雄）のように旧館、新館と時代が異なる建築物をつないで一連の街並みを形成しているものがある。江戸堀には煉瓦の外壁と尖塔がシンボルの[日本基督教団大阪教会](#)（1922年：ヴォーリズ）が変わらぬ佇まいで立っている。時代とともに周囲のまちは変わってもまちのシンボルとして親しまれている。時代の積層として建築が建ち、それらがまちをつくるという歴史的市街地の原則を端的に表現している。

そして何よりも船場の驚くべき点として、こうした実にバラエティに富んだ建築物が、コンバージョン、リノベーションなど様々な工夫によって、いまでも現役で使われている点にあるだろう。なかには消防署をレストランにコンバージョンした[今橋ビルヂング](#)（旧大阪市中央消防署今橋出張所、1925年：不詳）のような変わり種まである。

近年は、こうした愛すべき船場の建築物の魅力を生かしたまちづくりも進んでいる。その発端は、船場の近代建築のオーナーたちがその価値を再認識し、活用していこうとする取り組みが連鎖的に広がっていったことであるのも、民のまち船場の遺伝子がいまでも健在であることを感じさせてくれる。

その流れのなかで、旧銀行を改築したオフィスビルのファサードを残してマンションとして建替えされたグランサンクタス淀屋橋（1918年：辰野片岡建築事務所、改築1929年：國枝博）といった再生事例も誕生している。

都心回帰の流れが進むなか、船場には住むまちとしての顔も見え始め、歴史文化の薫るまちでありつつ、これからもその多様さを広げていくはずだ。（[嘉名光市](#)）



図 中央部の堀川で囲まれているのが船場（東横堀川、土佐堀川、西横堀川、長堀川）
（出所 大阪パノラマ地図 和楽路屋）